

北神塾 第三講 「政治のしくみ —政党政治の在り方と統治機構—」

平成26年7月11日

北神 圭朗

- 国民の思いはどうやって反映されるのか
 - 1 国民主権
 - 2 議院内閣制
 - 3 有権者→議員→与党（衆議院）→総理大臣→各大臣→役所

- そもそも政党は必要なのか？
 - 1 Party（ラテン語のPartita）は、あくまで国民の「一部」だけを代表する団体。
 - 2 国民の「全体」を代表する団体は、独裁制につながるとされ、近代民主主義では否定される。（例、大政翼賛会）
（注）天皇は、国民の「全体」の象徴。
 - 3 議院内閣制では、「部分」を代表する政党が競争しあうことによって、「全体の利益」を実現する。
 - ・ 国会での審議、メディアでの言論、政治活動、選挙を通じて与党、ひいては政権を形成する。
 - ・ 市場原理と同様、競争を通じて、「神の見えざる手」により、「部分」の利益が「全体」の利益になる。

- 指導力ある政治を実現する
 - 1 本来、我が国の文化は、強い指導力を嫌う
 - ・ 政治は、大和言葉では「まつりごと」
「政は軍事的な征服によってその支配を行なうこと、治は治水のような国土の経営によって国を治めることであり、政治とはそのような支配と経営の総体をいうとみてよい。（中略）我が国では「まつりごと」は祭政的な支配の形式を意味する語であり、そのような宗教的な権威をそのまま奉戴することが「まつろふ」であり、その上下の秩序に随順することが「したがふ」であった。これらの関係語彙の意味するところによって、中国古代の征服支配による経営的な政治のありかたと、我が国の、祭政的な形態をのちまでもとどめていた政治のありかたの相違を、見出

すことができるように思う。」(白川静「文字遊心」292p)

2 強い指導力の必要性

- 外交防衛の危機
- 大災害ならびに金融恐慌のような国内の危機

3 議院内閣制の総理はそもそも強い権力

- 大統領制との比較(予算案、法案の提出権)
- 「自分の政党を制する総理は、政治を制する」
- 役所を抑えるには、大臣の経験と実績

以 上